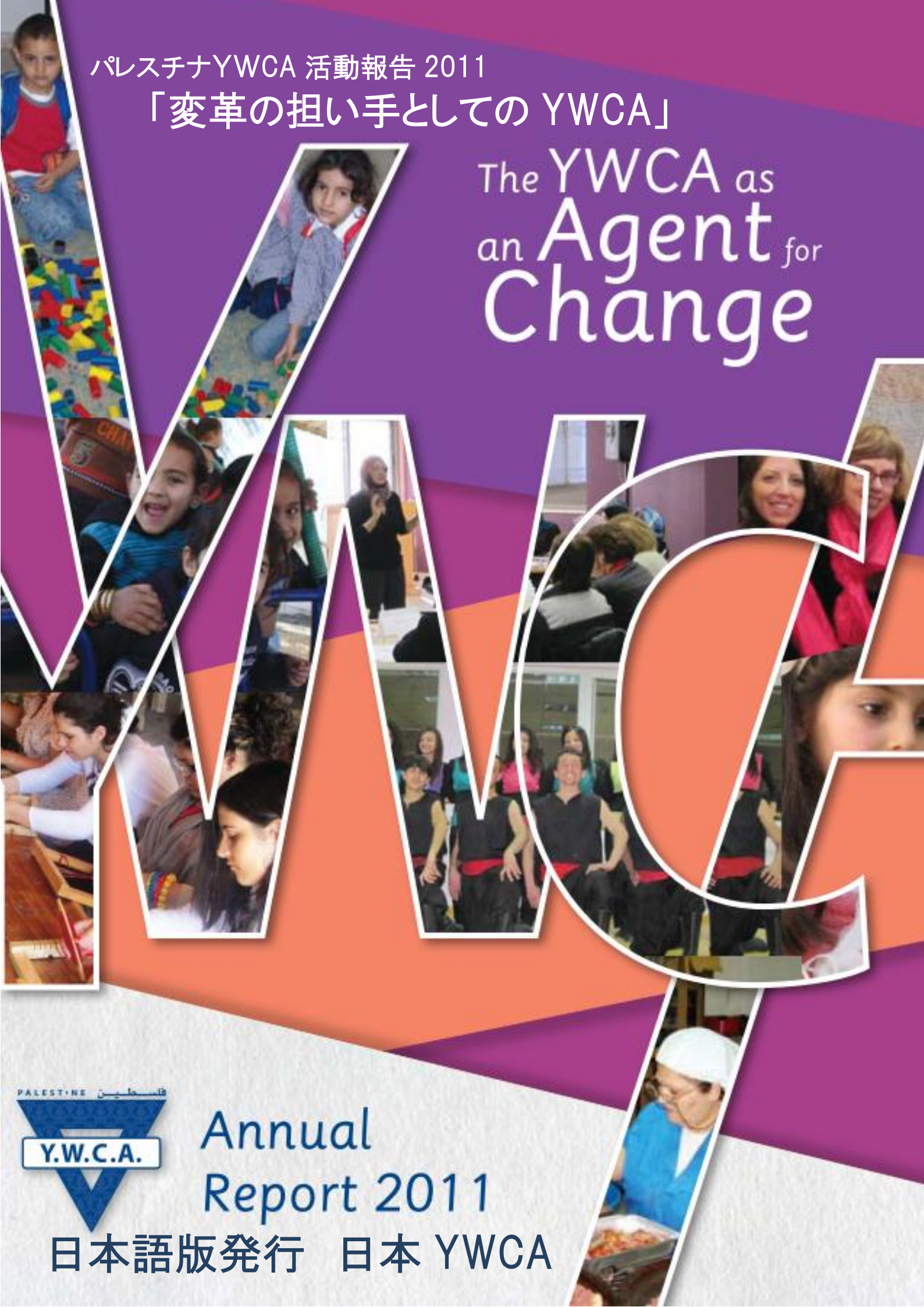


パレスチナYWCA 活動報告 2011

「変革の担い手としての YWCA」

The YWCA as
an Agent for
Change



Annual
Report 2011

日本語版発行 日本 YWCA

もくじ

1. 会長からのメッセージ …4
2. 2011 年を振り返って:総幹事からのメッセージ …5
3. 2011 年のハイライト …6
 - 3.1 スタッフの修養会:将来を見つめて …6
 - 3.2 スリランカを連帯訪問し Sthree Mela 会議に参加 …7
 - 3.3 女性が創り出す安全な世界:スイスのチューリッヒで開催された世界 YWCA 総会への積極的参加 …8
 - 3.4 第 55 会期国連女性の地位委員会(CSW):ニューヨーク市 …9
4. 2011 年度のプログラム …10
 - 4.1 新規プロジェクト …10
 - 4.2 移行プロジェクト …11
 - 4.2.1 雇用創出から経済的エンパワメントへ: パレスチナ YWCA の生産プロジェクトが目指す新たな方向 …11
 - 4.3 継続プロジェクト …12
 - 4.3.1 市場重視型の専門課程および職業訓練教育による若者に適した雇用機会 …12
 - 4.3.2 パレスチナ女性の権利と経済活動参加の促進 – FOCUS プロジェクト …15
 - 4.3.3 パレスチナの将来世代を育てる …16
 - 4.3.4 子どもたちの認知能力の向上 …17
 - 4.3.4.1 ジャラゾン難民キャンプセンターと幼稚園 …17
 - 4.3.4.2 アクバット・ジャベル難民キャンプ内の YWCA 幼稚園 …19
 - 4.3.4.3 エルサレム子どもセンター …20
- 5 国際舞台への参加、アドボカシー活動、外国からの訪問者 …21
6. パレスチナ YWCA および地域 YWCA 会長 …22
7. 2011 年会計報告 …22

1. 会長からのメッセージ

変革の担い手としての YWCA



パレスチナ YWCA は 1893 年、女性グループによって始められました。彼女たちを突き動かしたのは、パレスチナ女性の生活を変えるために力を尽くしたいという強い思いでした。パレスチナ YWCA は現在に至るまで、さまざまなコミュニティの若い女性のニーズに応えるプログラムを計画し展開してきました。そして、パレスチナの若い女性の増大するニーズに取り組む主要団体の一つになりました。パレスチナの政治情勢の変化にもかかわらず、いつの時代でもパレスチナ YWCA は直面した困難に立ち向かい乗り越え続けてきました。さらに、パレスチナ YWCA は、パレスチナの多様なコミュニティで生じているニーズ、とりわけ難民キャンプのニーズに応えるプログラムを開発してきました。私たちの使命は明確でした。今なお続くパレスチナの政治闘争のせいで人々が無力感に陥っていた時代に、より良い生活と希望への機会を愛と献身によって創り出してきました。これらすべてが達成できたのは、大きな勇気と強い信念があったからです。無力感は「変革は可能だ」という希望に変えられるという信念です。

パレスチナ YWCA は、女性と子どもの開発、職業教育、人権、平和と女性の権利に関するアドボカシー活動などの分野でパレスチナの女性を対象にした多くの団体やプログラム開発に影響を与えてきたのではないかと考えています。YWCA のリーダーたちは、女性が自分のためだけでなく周りの人のためにできることのお手本として、多くの若い女性の人生で常に重要な役割を果たしてきました。

2011 年度は、エルサレム、ラマツラ、エリコの 3 つの地域 YWCA で新たに運営委員が選出されました。変革の担い手であるリーダーとしての経験をしたという熱意に満ちた、仕事を持つ若い女性が運営委員会に参加したことを誇りに思います。

現在のそして長年にわたる私たちの課題は、ボランティアの貢献と職員の仕事とのバランスを上手く保ちながらどのようにして活動を円滑に組織化するかです。私たちの活動や手法を進めていくためのニーズや要求が時代と共に進化しているため、大量の仕事进行处理するには最新のシステムを造ることが必要になりました。これは引き続き大きな課題ですが、私たちは活動の自発的な側面と必要とされている専門的取り組みとのバランスを保つ必要を理解し努力しています。

この 1 年の成果は組織を運営するボランティアの支援と尽力なしには不可能でした。そして、それを可能にした役員と職員のためにも同じように重要でした。

愛をもって活動することと変革の担い手として誠実に努力することを誓った運営委員と役員の方々に深い敬意を表します。彼女たち一人ひとりに、そして私たちの使命を信頼し活動を支えてくださった協力団体と友人の皆様に、心より感謝申し上げます。

アブラ・ナシール
パレスチナ YWCA 会長

2. 2011 年を振り返って：総幹事からのメッセージ



本年度報告書のタイトルを「変革の担い手としてのYWCA」と決定しました。なぜこのタイトルにするかという理由や、「変革の担い手としてのYWCA」に対する考え方は多数ありました。長年にわたる私たちの活動の成果が表れてきた今、大きな変革が起きていることがわかります。

報告書は私たちの成果を誇りを持ってお伝えするものであり、また、多くの職員の努力と成果をまとめたものです。この報告書はすべての職員に変革とは何かを教えてくれます。変革とは、はっきりと意見を述べ、そこから学び、ほかの人を巻き込み、広めなければならない用意周到で良心に根差したプロセスなのです。

組織の運営管理面でいえば、YWCA の体制は現在安定し、機能しています。「ボランティア(運営委員会)」対「職員(執行機構)」の役割と責任は、これまでになく明確に文書化されています。運営委員会が最大限の勤勉さと透明性を持って役割を果たせるように、パレスチナ YWCA 事務所は「運営委員会ユーザーマニュアル」を初めて作成しました。この実用的なマニュアルが基準となり、将来の運営管理面に多くのよい変化を確実にもたらすでしょう。このマニュアルは、世界的な運動でも使われることを目的としています。

私たちは女性に職業訓練をするだけでは十分ではなく、より重要なのは女性たちの人生により変化をもたらすような訓練をすることだと数年前に認識しました。女性が正規の労働市場でより高い地位につき、生活を維持できる収入を得ることができるようし、女性の役割に対するコミュニティの見方を変える機会を女性に与える訓練こそが、職業訓練プログラムのあるべき姿です。この職業訓練は、変革をもたらす先進的な教育手段として初めて認識されています。投げられたすべての努力はついに、2011 年に実を結びました。

YWCA の食物・工芸品生産プログラムは長年続いており、これらの事業に採用されている女性も数名います。しかし大きな変化は、収入を得るだけでは十分ではなく、それが必ずしも女性の人生を変えたりエンパワーするとは限らないと私たちが気づいたことです。というのは変革の過程はずっと複雑で、長期間にわたり、多面的だからです。YWCA はこういったプロジェクトの新しい制度を創設し、女性の本格的なエンパワメントへとつなげます。この勇気ある移行のプロセスを私たちと共に進めてくれた協力団体および寄付者の皆様にお礼を申し上げます。

現在、私たちは、常に厳しく自問しています。私たちは何を達成したいのか？何を変革したいのか？誰の人生を変革しているのか？変革できるのか？そして、自分たちだけできるのか？それとも誰かと協力するのか？女性にサービスを提供するだけでいいのか？それともサービスを受けることを禁止する政策を変更させることに焦点をおいたほうがいいか？それとも両方をすべきか？女性、若者、子どもたちの人生、および自分たちが活動しているコミュニティにより影響を本当に与えたかどうかをどうやって測るのか？この数年間私たちがおこなった政策研究と市場調査により、サービスを提供すると同時に、女性の生活に影響する問題に取り組むロビー団体を作る必要もあることが確認できました。

この報告書の読者の方全員が、パレスチナ YWCA はプログラム、方向性、計画を大きく変化させているだけでなく、女性自身の人生にもコミュニティの生活にもよい変化をもたらすように女性をエンパワーしていることがお分かりになると確信しています。

ミラ・リゼック
パレスチナ YWCA 総幹事

3. 2011年のハイライト

3.1 スタッフの修養会: 将来を見つめて

10月半ばに、パレスチナYWCAは、YWCA職員を対象にした戦略的修養会をヨルダンで実施しました。その目的は、流動的な政治状況を踏まえて現行の2010-2015年組織計画を再検討し、組織を前進させるのに役立つスタッフ開発とトレーニングの必要性を明確にすることでした。

この修養会にはパレスチナYWCA事務所を含む3つの地域Yから11人のスタッフが参加しました。参加したスタッフは、アビーア・ガネム、アビーア・トタチ、アーダ・アガザリアン、デージー・ラマン、ハマン・カマール、マリーナ・クッタブ、メイ・アミレ、マヤダ・タラズィ、ミラ・リゼック、ナザール・ハルテ、ルラ・サラスでした。さらにPME(企画・モニタリング・評価)コンサルタントに加え、修養会のファシリテーターのアナ・マリア・パカノとレポーターのハイディ・G・ヴェラスケズも加わりました。

修養会の主目的は以下の3つでした。

1. 2012年以降の展望とビジョン
2. 組織開発: 組織のニーズの査定とCB/OD(能力構築・組織開発)行動計画の策定
3. チームの構築



修養会は私たちに刺激を与えてくれるもので、私たちの現状、長所や弱点、何をすべきか、その他すべてのことをストレスや日々の負担から解放された環境の中でじっくりと考える機会を与えてくれました。パレスチナYWCAは幾度となく責任や統治についての再編や再構築を経験しましたが、パレスチナYWCAと地域YWCAとの間の役割や権限の分担は依然として課題となっています。

修養会の最後に参加者は、単に組織の機能や今後の方向性を理解するだけでなく、仕事を離れた環境で同僚たちと知り合うことができるというユニークな機会を与えられたことをパレスチナYWCA事務所に感謝しました。修養会を通して参加者同士の距離はさらに縮まり、それぞれの違いや多様性をより理解できるようになりました。実際、この多様性こそが私たちの最も重要な長所であり資産であると再確認されました。

参加したスタッフはまた、今後数年間注意しなければならない問題や、これからも私たちが取り組み続ける課題、解決しなければならない問題などについてのリストを作成しました。

1. 組織の知名度を早急に高める必要があります。良い評判を利用して、YWCAは知名度アップ戦略を考え出す必要があります。
2. YWCAは素晴らしいサービスを提供し、女性や若者やコミュニティに良い影響を与えています。しかし、より弱い立場の人々に届くようにするために組織のサービスを拡大し活動を強化する余地があります。参加型ニーズ査定と明確な基準に



基づき具体的なターゲットを特定しはっきりと規定することが提案されました。

3. どうすればサービスを受ける人々を受け身の受益者と見るのを止められるか、どのようにしてコミュニティや対象グループが能動的なパートナーや参加者となり変革の担い手となれるかについてさらに慎重に検討することが必要です。
4. 若者に門戸を広げ、彼女ら／彼らのネットワークを広げ変革の担い手となれるようにすることが必要です。
5. さらに、パレスチナの財政がいかに不安定であるか、また外部の支援への依存を縮小していく必要があることを確認しました。パレスチナ YWCA は、自立したプログラム、および資産をより生産的で収入を産むようにする方法を引き続き考えださなければなりません。

修養会をおこなったことで、チームの結束が強まり、共通のビジョンが生まれ、同じミッションへの帰属感を持つことができました。最も大切な成果は参加者が楽しい時を過ごし、自由に考えることができたということです。パレスチナ YWCA は、修養会を支援し実現に導いた主要協力団体である Y-グローバルに大変感謝しています。

3.2 スリランカを連帯訪問し Sthree Mela 会議に参加

若い女性を対象とするプロジェクト(支援: FOKUS、協力: 世界 YWCA、Y-グローバル、南スーダン YWCA、スリランカ YWCA)の一環として、紛争国の YWCA の若い女性たちが 2011 年 12 月 3 日から 11 日まで、スリランカを訪問し、Sthree Mela 会議に出席しました。このプロジェクトは世界 YWCA とパレスチナ YWCA の「変革への力基金」からの資金援助を受けました。(支出名目「若い女性のリーダーシップと市民活動への参加を高め変革の担い手にする」)



パレスチナ、スーダン、スリランカ、ジンバブエ、ミャンマー、コロンビアの各 YWCA から参加した女性たちは意見を交換し、紛争地帯での経験と自身のコミュニティで直面する課題を話し合い、その後ジャフナを連帯訪問しました。

参加者は次の 11 名でした。サラ・アルムガム(スリランカ YWCA)、イニドゥラニ・ガマラキッキ(スリランカ YWCA)、マリエークロード・ユルサンド(世界 YWCA)、トル・クイエチティル・エドランド(Y-グローバル、ノルウェー)、アーダ・アガザリアン(パレスチナ YWCA)、クリスチーナ・アブダラ(パレスチナ YWCA)、シケルスル・ンドロブ(ジンバブエ YWCA)、ルーシー・ナデヨ・バッシュア(南スーダン YWCA)、ラエティティア・ベニト(南スーダン YWCA)、マグダ・ロペツ・カルデナス(コロンビア YWCA)、クエク・パウ(ミャンマー YWCA)です。一行は、スリランカでの紛争、厳しい生活状態、また内戦が 2009 年に終了した後もまだ続く内紛などについて知りました。ジャフナでは、難民復興機構、IDP(国内避難民)キャンプの 4 家族、ジャフナ病院などを訪問し、スリランカのエメルダ・スクマール県行政官長と会い、さらにジャフナ YWCA が主催する文化の夕べに出席しました。充実した 5 日間のバス旅行で、参加者たちは内戦で疲弊した地域に住むことで影響を受けている弱い立場の人々を目の当たりにしました。

ジャフナ訪問後に、コロンボでジュリー・ダグデル(世界 YWCA スタッフ)、ミラ・リゼック(パレスチナ YWCA 総幹事)、ニャラサイ・ゲンボンズバンダ(世界 YWCA 総幹事)が合流し、全員が特別試写会に招待され、映画『明らかにされた平和』を鑑賞しました。(これはアプリゲル・ディズニーによる PBS(アメリカ公共放送サービス)テレビ『女性、戦争、そして平和』シリーズ 5 作品中の 1 本です。アプリゲル・ディズニーは参加者に直接会い、若い女性たちが抱える課題に耳を傾けました)。

展示や会議がおこなわれる「Sthree Mela(スリランカ女性の声)」の開会式が 12 月 8 日にコロンボでおこなわれ、YWCA はここでの 3 つのパネルディスカッションに参加し、その内 2 つにパネリストを出しました。アーダ・アガザリアン(パレスチナ YWCA)は「平和構築のためにメディアを使う」に、ミラ・リゼック(パレスチナ YWCA 総幹事)は「国連安保理決議 1325 号の実行を求める」にそれぞれパネリストとして出席しました。3 番目のパネルは YWCA が中心になったもので、マリー・クロード・ユルサンド(世界 YWCA スタッフ)が司会をし、ジンバブエ、ミャンマー、コロンビアの各 YWCA の女性パネリスト 3 人が発言しました。

この度のスリランカ訪問は、運動として関わり続けること、そして女性のための安全な場を創るために一層努力するという強い思いを新たにするものとなりました。

3.3 女性が創り出す安全な世界: スイスのチューリッヒで開催された世界 YWCA 総会への積極的参加

2011 年 7 月、115 の加盟 YWCA 代表である 850 人を超える女性が意思決定をおこなうためにチューリッヒに集結しました。世界各地からチューリッヒに多くの代表が集結し、「若い女性のリーダーシップ対話」とプレ総会から刺激を受けたあと、総会で「女性が創り出す安全な世界」をテーマに話し合いました。

パレスチナ YWCA からは 6 人の代表全員が世界総会に出席しました。パレスチナ YWCA の代表は、パレスチナ YWCA のアブラ・ナシル会長、ハイファ・バラムキ副会長、ミラ・リゼック総幹事、エルサレム YWCA のサンドリン・アメール運営委員、エリコ YWCA 会員のクween・マサド、ラマツラ YWCA プログラム担当のファテン・フツサリです。また、中東地域選出の若い女性として世界 YWCA 運営委員(2007-2011)を務めたパレスチナ YWCA のアーダ・アガザリアンも出席しました。



パレスチナ YWCA は、チューリッヒでの数々のセッションとワークショップにおいて主要な役割を果たしました。世界 YWCA 総会の参加に先立ち、パレスチナ YWCA の代表全員が総会出席やプレゼンテーションに備えて、各地域 Y 会議に出席しました。また、分科会やワークショップにも出席して、地域別会議やビジョニング分科会に参加しました。

今年度の世界 YWCA 総会のハイライトは、パレスチナ人の権利について国際法の遵守を強く要請する BDS (ボイコット、資金引き揚げ、制裁措置)キャンペーンを正式に認め支持したことでした。また、興奮や笑い声、賛成を示す赤いカードや拍手が飛び交う中でおこなわれた新しい世界 YWCA 運営委員の選挙もハイライトとなりました。デボラ・トーマス(トリニダード・トバゴ YWCA)を新会長として選出し、新しい運営委員は 18 人の女性で構成されています。そのうち 8 人は 30 歳以下の若い女性です。中東地域代表の世界 YWCA 運営委員にはハイファ・バラムキ(パレスチナ YWCA)とホダ・カマル・エル・マンカバディ(エジプト YWCA)が選出されました。

3.4 第 55 会期国連女性の地位委員会(CSW):ニューヨーク市

若い女性のリーダーシップと市民活動への参加を高めて変革の担い手にする

世界 YWCA「変革への力」基金プロジェクトおよびパレスチナ、スーダン、スリランカの各 YWCA 間の Y-グローバル・パートナーシップ・プログラム(FOKUS 支援)のもと、パレスチナ YWCA から 3 人、スリランカ YWCA から 1 人の若い女性が、2011 年 2 月から 3 月にかけてニューヨーク市で開催された国連女性の地位委員会(CSW)に参加しました。

パレスチナ YWCA のファテン・フッサーと メイリーン・デービッド、スリランカ YWCA のサラ・アルムガムは、プロジェクト統括のアーダ・アガザリアンと共に世界 YWCA と Y-グローバルの支援を受け、プレゼンテーションをおこないました。プレゼンテーションは若い女性の教育のために安全な場を創ることや平和構築、国連安保理決議第 1325 号の実行に焦点が当てられ、パレスチナやスリランカ、南スーダンの各 YWCA がおこなってきた活動が報告されました。



CSW 期間中のその他のハイライトには、世界 YWCA の世代間対話の開催、国連の UN ウィメン の設置、世界 YWCA 声明の提出などがありました。また、参加者は女性と教育に関する課題に焦点を当てたセッションや若者の意見を聞いて刺激を受けました。パレスチナ YWCA は CSW に参加できたことを喜び、多様なパネルディスカッションや礼拝、主要イベントで存在を示しました。



4. 2011年のプログラム

パレスチナ YWCA のプログラムは常に進化しています。私たちはここ数年間で、すべてのプログラムについての評価、見直し、査定、市場調査、ビジョン再構築をおこないました。こうした作業を進めていく中で、多くのことを学び、共有し、課題が明らかになりました。それに基づき、私たちはパレスチナ YWCA の中心となる枠組の範囲内でまったく新規のプロジェクトを開発したり、既存のプロジェクトに対する新たな方法やアプローチを模索しました。

ここでは、新規プロジェクト、移行プロジェクト、継続プロジェクトのそれぞれについて概要を説明します。

4.1 新規プロジェクト

災害に強い国・コミュニティの構築:ヨルダン渓谷における新しい取り組み

3年に及ぶ「コミュニティ・レジリエンス」(コミュニティの災害に対する抵抗力強化)プログラムが YWCA、その協力団体である YMCA および西岸とガザの PARC(パレスチナ農業復興委員会)の3つの組織で実施されることになりました。パレスチナでは初めてのことです。このプロジェクトは DIFID(英国国際開発省)の支援を受けて英国の NGO クリスチャン・エイドが進めているものです。

このプロジェクトは、「兵庫行動枠組 2005-2015:災害に強い国・コミュニティの構築」を受けて実施されています。災害による被害の軽減、人命および経済的損失の軽減を目的とするこの枠組は国連によって採択されました。

コミュニティ・レジリエンス・プログラムの最終目的は、災害リスクへの備えおよび緊急事態軽減のための活動をパレスチナの法律や国家政策に盛り込むことです。その手始めとして、パレスチナの現行政策を国際水準との比較で評価するための検討範囲の絞りこみがおこなわれました。

YWCA はこのプロジェクトで協働するコミュニティとして、アカバト・ジャベル難民キャンプ、アル・ヌウェイメ村、アル・デオウク村の3つを選びました。この3つのコミュニティにおける災害抵抗力を構築するための新たなアプローチを試験的に取り入れています。ここで実施される PVCA(住民参加型の脆弱性および能力の評価)トレーニングはコミュニティのほぼすべての分野をカバーします。トレーニングを通じて、住民はコミュニティの災害対応能力と脆弱性に気づき、強化すべき点が明確になります。

2011年10月、YWCA をはじめとする3団体は PVCA の実施方法についてのトレーニングをはじめ、DRR(災害リスク軽減)、CCA(気候変動適応)、HAP(人道支援の説明責任パートナーシップ)に関するトレーニングを受けました。



PVCAは、コミュニティのニーズよりむしろ災害リスクや脆弱性を分析・評価するという点でニーズ評価とは異なります。PVCAは生計アプローチであり、コミュニティの人々はトレーニングに参加し、災害に対する自分たちの脆弱性や能力を見きわめ、脆弱性を克服するためにその能力をどう利用できるかを理解します。トレーニングの最終的な成果は、コミュニティの住人が作り実施する行動計画です。PVCAは、コミュニティ、とくに貧困に苦しむコミュニティのすべての分野を網羅した評価であるため、他の手法よりも高い信頼性を持っています。

2011年11月、YWCAは前述した3つのコミュニティの地域組織および住民組織と連携を取り、PVCAをコミュニティで実施するためのトレーニングを受けるボランティアの任命を依頼しました。

2011年12月、こうして任命されたボランティアはPVCA、DRR、CCA、HAPのトレーニングを受け、2012年におこなわれる災害抵抗に関する評価に協力する準備ができました。

4.2 移行プロジェクト

4.2.1 雇用創出から経済的エンパワメントへ：パレスチナYWCAの生産プロジェクトが目指す新たな方向



パレスチナYWCAはこれまで、2つのプロジェクトを実施してきました。1つはエリコにおける食品生産プロジェクト、もう一つはジャラズンにおける工芸品プロジェクトです。これらは多くの発展の段階を経て受け継がれ、2011年に新たな方針に転換しました。そこには、常にジレンマとなっていた課題がありました。これらのプロジェクトは、女性の雇用を目的とするものなのか？それとも、YWCAの利益創出を目的としたものなのか？あるいは、両方の目的を達成できるものなのか？何回も計画会議がパレスチナYWCAの意思決定機関レベルでおこなわれ、最終的に次の結論に達しました。これらのプロジェクトを持続することができることを示さなければなりません。しかし最も重要なのは、このプロジェクトによって女性が生活を維持できる収入を得て、家族の幸せに貢献し、家庭における昔からの男女の役割分担や意思決定権に影響を与え、最終的には技術を習得し正規の仕事に就くことにより、生活を改善することです。

他のプロジェクト同様、これらのプロジェクトを見直すためにも外部のコンサルタントを雇いました。コンサルタントからは、「社会事業」への移行という提案がなされ、YWCAはこれを承認しました。オックスファム/ケベックの協力により2011年に新規事業開発/マーケティング顧問が公募され、コンサルタントが採用されました。コンサルタントは2012年に就任予定で、両方のプロジェクトに対し助言する予定です。パレスチナYWCAは以下のことを実施しようと努力しています。

- ・ アカバト・ジャベル難民キャンプに新しい生産センターを設立し、生産を拡大し、より多くの難民女性を雇用し必要な健康・環境基準を整える
- ・ 最も貧困なコミュニティに住む多くの女性に、さまざまな食品生産技術、事務処理能力およびマネージメント技術などのトレーニングをおこないプロジェクトで雇用する。あるいは、金融機関と連携して女性が融資を受け起業でき

るようにする

- ・ 女性生産者と市場の仲介役となり、家内食品工業に販売機会を与える
- ・ 今後 4-5 年の間に、少なくとも 100 人の若い女性を食品生産で雇用し、地元の市場に出荷できるようにする

エリコでの食品生産がこの夏に 10 周年を迎え、外部からの資金援助なしに独立採算していることは特筆するべきでしょう。

同じくジャラソン工芸プロジェクトの評価もおこない、新製品も生まれました。パレスチナ YWCA は、伝統的な人形をはじめ、地域世帯の経済を活性化するパレスチナ製品の生産をサポートする新規出資者を探しています。

サクセス・ストーリー

マジェダ・ハサン・モハンマド・アヤードは 2005 年からエリコの食品生産プログラムで働いています。彼女は、夫と 3 人の子どもと義理の母と、エリコにある質素な家で暮らしています。彼女がパレスチナ YWCA で働き始めたのは、夫の収入では家計が賄えなかったからです。子どもたちが成長し学費が高くなり、副収入なしでは子供たちを大学に行かせることができませんでした、とマジェダは語ります。



マジェダは、今住んでいる地域で雇用の機会を得られたことは幸運だと考えています。「この地域では、大学の学位を持っていない女性の雇用の機会はそう多くありません。パレスチナ YWCA の食品生産プログラムがあり助かりました。私の給料があるので、子どもたちの教育費を払うことができます」現在、マジェダの上の 2 人の子どもはエルサレム近郊のアブディスにある大学に通っており、下の子は高校最後の学年で勉強しています。

4.3 継続プロジェクト

4.3.1 市場重視型の専門課程および職業訓練教育による若者に適した雇用機会

2011 年は、エルサレムとラマツラにおいて 3 年間続けてきた職業訓練プログラム(VTC)の改革と改良のための努力が実を結んだ年でした。より多様な科目を VTC の生徒に提供できるよう、モジュール制とテーマ選択制が採用されました。これは一見通常の改革と改良のように思われるかもしれませんが、従来型から革新的なプログラムへの今回の移行は必然的なものと言えるでしょう。ラマツラとエルサレムの労働市場における秘書需要と、秘書の特定の能力へのニーズを分析した市場調査・評価に基づきこうした改革を実施しました。



特にラマツラの労働市場における、秘書の需要増加を示す前向きな兆しがいくつか見られました。中でも重要なのは以下の点です。



- ・ 事業数の安定した増加
- ・ 複数の秘書を雇用する中・大規模の組織や企業数の増加
- ・ 公共部門の成長と秘書および／またはオフィス・マネージャーのニーズの拡大

さらに、ラマツラとエルサレムの市場調査から、従来型の秘書技能は、発展し変容しつつある地域市場の需要をまはや満たせないことが明らかになりました。雇用主は高度

な技術的スキルと優れた個人的特質を持つ秘書を求めています。現在の秘書課程では、女性の非常に伝統的かつ従属的な役割に重点を置いています。この方向を継続しても、女性のスキル向上や、将来、正規労働市場で高賃金の仕事に就くのに役立つ上に、専門職において男性と競い合うこともできないでしょう。市場で求められているのは、オフィス・マネジメントや会議の手配、経理、報告業務、オフィス備品管理などに必要とされる、いくつもの役割を果たす能力を持つオフィス・マネージャーなのです。さらに重要なのは、雇用主が必要としているのは、職場の厳しい倫理規範を理解し実践する、高い規範意識を持つプロフェッショナルな労働者だということです。これに応じて、YWCA では修了証書に記載する課程を「秘書課程」から「オフィス・マネジメント課程」へと改めました。

また、調査結果から、YWCA が生徒およびコミュニティに対して提供できる他の専門課程のニーズが浮かび上がってきました。

ラマツラにおいては、市場調査から催事管理と顧客関連業務が優先分野とわかり、YWCA は現在、これら 2 つの専門課程のカリキュラム、研修教材およびツールの開発に取り組んでいます。ラマツラ YWCA では、2012 年～2013 年の学校年度から生徒とコミュニティ対象にイベント・マネージャーの専門課程を、その翌年度には顧客関連業務の専門課程を実施する予定です。カリキュラム開発は PUM(オランダ経営協カプログラム)という団体が担当しています。同団体はカリキュラム開発の専門家集団であり、講師の研修に加えてこれら 2 つの専門課程のための教材やツールの開発にも関心を示しています。



2011 年には 46 名の VTC の生徒が卒業し、さまざまな民間の団体で 1 ヶ月間(就労時間 160 時間)のインターンシップに参加し、その後雇用につながりました。2011 年～2012 年の学校年度は 58 名からのスタートでしたが、新しい専門課程の採用により、今後生徒数が増加することを願っています。

さらに、新ラマツラ YWCA 会館の 1 階の建設が終わり、職業訓練センターが新しい建物に移転しました。2011 年 9 月 6 日におこなわれたセンターの落成式には、ラマツラ市長ジャネット・ミックハイルとコミュニティの人々、団体や行政

機関の代表が多数出席しました。新しいセンターは最低 90 名の生徒が昼のコースで学ぶことが可能で、要望に応じて短期の午後の技術コースも開講予定です。

エルサレムでは、イギリスのケンブリッジ・インターナショナル認定のプロジェクト・マネージメント、そして経理の専門課程を VTC の生徒と、キャリアアップや雇用の機会を広げるためにこうしたスキルを必要とするコミュニティの人々に提供しています。VTC の生徒はこれら 2 つの専門課程を 2010 年～2011 年の学校年度から受けました。また、調査と雇用主への聞き取りからニーズが明らかになったマルチメディアの専門課程についても、YWCA では PUM の専門家に依頼して開発に取り組んでいるところで、2012 年～2013 年の学校年度から実施される予定です。



2011 年 9 月、64 名の生徒がオフィス・マネージメント課程を卒業し、2012 年には新たに 84 名が入学しました。国連など卒業生の就職先であるさまざまな組織から 8 団体が新たにプロジェクト・マネージメントの専門課程に加わり、生徒のスキル向上を手助けしてくれています。64 名の卒業生は、雇用につながることを期待してエルサレム市内の団体での実地研修を受けます。

労働市場のニーズに応えるための VTC の改革とカリキュラム改良は、小さなステップに過ぎません。職業訓練イコール補助的スキルの習得という従来の考え方から雇用のための教育へと認識を変えるための、より広範で戦略的プロセスとしてメディアの活用とコミュニティの教育に焦点を当てています。

以上述べてきた諸改革は、変革をもたらすために周到に考えられた目標のもとに進められたものです。一つは、生徒自らの職業教育についての認識を変え、職業訓練を修了することはエンパワメントと自己実現への第一歩に過ぎないと理解させること、そして 2 つ目のより重要な目標は、職業訓練は役に立たないというコミュニティの認識を変えることです。この認識を変えるために、メディアによるキャンペーンをおこないます。新しい専門課程は市場での雇用を目標に設定しているので、生徒は自分たちの社会的地位、収入、家庭、そして何より正規の労働市場における自分たちの役割を変えることができるのだという信念を得られるはずです。生徒はエンパワーされ、どんな課題にも立ち向かい、いかなる困難をも克服し、期待以上の成果を挙げるでしょう。生徒は成長し、学び、信念を築き、自らの人生を切り開き、他人に影響を与えるようになると思います。それこそがまさに「変革」なのです。

サクセス・ストーリー

ジョーゼット・クーリー： 忍耐強い母、そして学生

ジョーゼットを見て、彼女が5人の子どもを持つ40歳のシングルマザーだとは誰も思わないでしょう。旺盛な知識欲がジョーゼットを若々しく活気あふれる女性として際立たせています。「これまで人生の長い間苦勞してきましたが、今は身につける一つ一つの新しい知識がとても貴重に感じられます。



そして、できる限り勉強したいと思っています。YWCAで学んだことが私の自信を高め、考え方を変わってくれました」。こう語るジョーゼットはYWCAで勉強する前はコンピュータに触ることもありませんでしたが、今ではインターネットに習熟しているだけでなく、さまざまなスキル、とりわけ経理、銀行残高調整、ファイリングなどが得意です。「ケータリング、デザイン、経理など、たくさんのことをしてみたいし興味があるので、一生懸命頑張ります。長い間、自分のしたいことを諦め、どうせだめだと逃げ腰できました。親しい友人の中にさえ足を引っ張ったり嘲笑する人もいましたが、それでも人生から逃げるのではなく苦難に立ち向かい、力をつけようと決心しました。自分に力をつけることは子どもたちの力をつけることにもなるのがわかりました。VTCプログラムに申し込んだ瞬間から性格も自己意識も強くなったのに気づきました。今も大きな問題を抱えていますが、それでも、より良い新しい未来を見つめ続けていきます」

4.3.2. パレスチナ女性の権利と経済活動参加の促進 — FOKUS プロジェクト

パレスチナ YWCA は 2011 年 2 月、女性の権利とジェンダーの平等を求めるアドボカシーおよびロビー活動に関する 3 日間の研修をおこないました。研修を受けたのは、3 つの地域 YWCA の総幹事、プログラムおよびプロジェクト担当スタッフ、パレスチナ YWCA スタッフでした。研修ではパレスチナ国家計画と国連安保理決議第 1325 号 (UNSCR1325) との関連に焦点が当てられました。両者を連携させ、それぞれのネットワーク内で取り組み、さらにアドボカシー戦略について地域および国際レベルでより大きなコミュニティと協働することなどがポイントとして挙げられました。

この他、2011 年には FOKUS プロジェクトの支援による、女性の権利と UNSCR1325 に関する 2 つの研修が以下のよう

- ・ 11 月 22 日 ラマツラ： 30 人の女性が参加 (うち 25% が若い女性)。ほとんどが東エルサレムのシェイフヤラ地区とジャラゾン難民キャンプからの女性。
- ・ 11 月 24 日 エリコ： 47 人の女性が参加。参加者の年齢層はさまざまで (半数は 30 歳以下)、地域も限定的ではなかった (多くはエリコとエルサレム、およびその近隣の村の女性)。



研修では UNSCR1325 の概要についてわかりやすい説明がなされ、また、女性の権利実現のために活動し、政府機関に圧力をかけ、地域社会の変革に参加することがいかにパレスチナ女性の生活に直接影響をもたらすかを示す事例などが紹介されました。

FOKUS 支援プロジェクトでおこなったアドボカシーおよびロビー活動の成功に勇気づけられ、パレスチナ YWCA は 2011 年に世界 YWCA「変革への力」基金に同様のプロジェクトを提出しました。このプロジェクトの重点は、若い女性のリーダーシップと市民活動を強化し変革の担い手にすることです。こうしてスタートした「変革への力」プロジェクトは FOKUS プログラムに従って円滑に実施され、さらに多くの若い女性がアドボカシー活動、意思決定、ロビー活動に継続的に参加しています。パレスチナ YWCA は、若い女性が 2011 年の国連女性の地位委員会(CSW)に積極的に出席する機会をつくった他、若い女性の権利、UNSCR1325、アドボカシー活動、市民活動などに関する、若い女性を対象にした 3 日間の研修をいくつか実施し、参加者は合計 50 人に達しました。

4.3.3 パレスチナの将来世代を育てる

若い世代との活動の中でリーダーを育てその能力を高めることがパレスチナ YWCA にとって今後も重要な課題です。若い世代とともに活動し、彼らに研修を受けさせ社会の中でリーダーシップを発揮できるようにすることが、状況を真に前向きに変化させる最良の人的投資であり、よりよい未来へ向けての唯一の希望であることに変わりはありません。



パレスチナ YWCA は若い女性のための組織として、その歴史を通して若い女性および若者全般と共に歩んできました。若い世代のリーダーシップを生み出し育て、彼らがパレスチナ社会を積極的に築き上げていけるように多様なプログラムや活動を展開してきました。エルサレム、ラマツラ、エリコ、および周辺の難民キャンプなどさまざまな場所で、リーダーシップと市民活動の研修、サマーキャンプ、演劇やダブカ(*)と呼ばれる伝統的な踊りのグループ活動など、幅広いプログラムや活動を長年おこなってきました。こうした多様な活動は若い会員に触発されたものであり、彼らの具体的な関心やニーズに応じて若者と共に計画してきたものです。

この 6 年間パレスチナ YWCA は、スウェーデン YWCA-YMCA を通じて SMC(スウェーデン・ミッション・カウンスル)の支援を受け、リーダーシップと市民活動促進に焦点を当てた若者のための多様なプログラムを実施してきました。2011 年は SMC の潤沢な支援のおかげで、さまざまな教育活動やレクリエーション活動の開催が約百に及びました。その内容は、人権、市民活動、リーダーシップに関する研修や、サマーキャンプ、および若い世代の継続的に活動するグループを、エリコ YWCA に 2 グループとラマツラ YWCA に 1 グループ作り上げたことなどです。



特筆すべきことは、過去 3 年間に若い世代向けに実施された幅広いリーダーシップ研修を受け、ラマツラの若い会員が自信を持ち、ラマツラ YWCA の運営委員会選挙に初めて立候補し、2011 年 10 月運営委員に新規に選出されたことです。現在、ラマツラ YWCA の委員会の 33%は 30 歳以下の若い会員で構成されています。

さらに、エルサレム YWCA では、さまざまな若者向けプログラムや

活動をおこない、約 300 人の若者に働きかけることができました。最も重要なプログラムはリーダーシップ養成であり、主としてパレスチナ、特にエルサレムの状況と関連づけて、参加者の自尊心を高め自分たちの人権について教える内容でした。

そして、若者のプログラムをさらに充実させ、パレスチナ地域社会の中で若者の市民活動参加とリーダーシップ発揮を確実にする取り組みとして、2011 年に若者対象の戦略の準備を始めました。これは過去の若者のためのプログラムの経験や教訓を踏まえ、若者の実際のニーズと提言を反映するものです。この戦略にはさまざまな作業が伴います。すなわち過去のプロジェクトを評価し、ニーズ査定をおこない、現在参加している若者や新しい若者を取り込み、最終的には若者を対象にした戦略を練り上げることになるでしょう。

(*)音楽に合わせ、主として結婚式や卒業式などに踊られる、パレスチナの伝統舞踏。

サクセス・ストーリー

ラマツラ YWCA の青年会員が運営委員に就任

VTC(職業訓練プログラム)修了生で、非常に活発な青年会員であるミス・アブ・レイルが 2011 年 10 月に実施の運営委員選挙に立候補することを決心しました。彼女は正式に運営委員となる得票数を得ることができました。しかしそれだけではなく最も重要なことは、次のようなメッセージを伝えたことです。つまり、SMC プロジェクトで彼女が担当したリーダーシップ・トレーニングが、「若者は地域社会のサービスの受益者にとどまらず、手段と機会を与えられれば地域開発の主要な担い手になれるし、なるべきだ」ということを理解するのに、いかに役立ったかということです。彼女は新会員にその経験を伝えていこうとしています。



4.3.4 子どもたちの認知能力の向上

4.3.4.1 ジャラゾン難民キャンプセンターと幼稚園

ジャラゾン難民キャンプで暮らす社会から取り残された女性たちや子どもたちの暮らしを少しでもプラスの方向へ変えるというのが常にパレスチナ YWCA の重要な課題でした。1968 年に設立されたジャラゾン・センターは、必要とされる多くのサービスを地域社会に提供するキャンプ内の最初の機関でした。若い女性たちを対象に刺繍などの手芸から技能訓練、保健サービス、女性の人権への意識向上に至るまでセンターでは継続的に女性たちの経済的自立を支援し、ジェンダーへの意識を高め、ジャラゾンの女性たちに安心して過ごせる場所を提供しています。しかし中でも重要なのはジャラゾン・センターが難民キャンプの子どもたちのためにずっとおこなってきた活動でしょう。

パレスチナの子どもは普通の子どものとは違った環境の中で成長します。子どもたちの純真さや夢、そして平穏な暮らしを破壊する占領状態で発達を歪められています。子どもたちは絶え間ない恐怖の中で生き、早く大人になるよう強いられ、周囲の厳しい環境に対峙することを余儀なくされています。その結果、幼児教育への投資が必要であり義務となります。パレスチナの子どもたちが占領下の生活における困難な状況に立ち向かえるように助け、その難局に適応する能力や知恵が身につくようしっかりとした基盤を与える必要と義務があるからです。ジャラゾン・センターの幼



児教育プログラムで私たちが目指すものは、子どもたちの身体的、知能的、認知的、社会的、そして情緒的な成長を促すことによって自分に対する肯定的な見方を持てるようにすることです。特に重点を置いているのは、子どもたちの旺盛な探究心を高めることです。子どもたちは周囲の世界を好奇心を持って見まわし、何故さまざまな出来事が起こるのか、ものごとの仕組みはどうなっているのかなど質問するように働きかけられます。

設立以来 44 年間、YWCA は参加型の学習環境の中で活動する場をジャラソンの子どもたちに提供しています。そこで子どもたちは個々にそして大小色々なグループで活動できます。子どもたちは課題についてよく聞いてやり遂げる、友だちの話を聴く、順番を守り分かち合い、ルールに従い、他人の持ち物を大事にし、自分の持ち物は自分で責任を持って管理することなどをセンターで教えられていることは事実です。しかしさらに重要なことは、子どもたちの一人ひとりが唯一かけがえのない存在であること、つまり、誰もが異なる独自の個性を持ち、異なる長所を持ち、一人ひとりがそれぞれの長所を最大に活用し、短所を克服できるような方法で学習する機会を与えられるべきだと毎日繰り返し教えられていることです。

2011 年には、この幼稚園から 70 人の子どもたちが卒園し、さらなる自信と希望を持って学校生活をスタートさせることになりました。



サクセス・ストーリー

アブデル・カーン・オマール

ラマツラのジャラソン難民キャンプに住む 5 歳のアブデル・カーン・オマールくんは、2010 年～2011 年の学校年度、YWCA 幼稚園で学びました。彼は YWCA 幼稚園で生まれて初めて教育を受けました。アブデル・カーンくんのケースは、非常に特殊で前例のないものでした。というのは入園当初、彼は友だちや先生と話す時に文語アラビア語しか使えなかったため、全くコミュニケーションをとることができなかったのです。



このため先生が彼に話しかけても理解することができませんでした。彼の置かれた状況や言葉の問題についてアブデル・カーンくんの両親と話し合った結果、彼はテレビの宗教番組やドキュメンタリー、漫画を

観て文語アラビア語を学んでいたことが分かりました。彼は生まれてから、他の子どもや友だちや近所の人たちばかりか家族とさえも触れあうことがなく、テレビばかり見ていたのです。

先生も子どもたちも彼とコミュニケーションをとれず、彼は口語アラビア語で自分の言葉を学び直さなければならなかったのが、容易なことではありませんでした。彼はライフスキルや他の人々との関わり方の基本さえ知りませんでした。

YWCA 幼稚園に入園して 2 カ月間、アブデル・カーンくんは口語アラビア語を集中的に学び、新しい言語とさまざまなことを学ぶスキルを身につけることができました。今では、彼は友だちや先生と問題なくコミュニケーションをとり、交流することができます。これは彼の言葉と教育面での進歩において大きな役割を果たした先生たちと両親の多大なサポートによるものです。

アブデル・カーンくんの両親は、先生たちのサポート、忍耐、多大な尽力に感謝し、「息子は、口語アラビア語が分かるようになったばかりでなくとても社会的で積極的な子になりました」と語りました。

4.3.4.2 アクバット・ジャベル難民キャンプ内の YWCA 幼稚園



アクバット・ジャベル難民キャンプ内の YWCA 幼稚園での幼児教育は、子どもたちのニーズを知能、社会性、情緒、身体などの面で満たす認知教育法に添ったものです。プログラムは、子どもたちが探究や自己発見、そして教師が指導する活動を通じて自分たちの知識の世界を広げる意欲を高めるものです。教師はこうした活動において、子どもたちが自主的に調べ、持っている知識と新情報を用い、問題を解決したり新しいスキルを体得できるよう手助けしています。

YWCA 幼稚園での幼児教育は、アクバット・ジャベル難民キャンプの恵まれない境遇の子どもたちが後に学校に上がったからの学業面に効果をもたらして来ており、今もなお効果を上げ続けています。2010 年～2011 年の学校年度の卒園生 80 人は体得した知識やスキルをフルに使いこなすようになり、さまざまな行動でプラスの変化があったことが明らかになりました。例えば、衛生習慣を身につける、責任を持つ、指示されたことを守る、仲間を受け入れる、互いに助け合うなどの行動です。これらの変化には両親や学校の先生、地域住民が気が付き、意見を寄せてくれました。

このような成果が得られたのは、一つには教師がさまざまなタイプのテーマ別カリキュラムやオープンフレームワーク、子ども主体の保護メカニズムを利用したからです。この過程で、教師は子どもたちのニーズや要求に適応するような方法を開発しました。二つ目は、本や教育ゲーム、オーディオやビデオ、CD などの多様なメディアと道具を使った学習を奨励したことです。

教師や両親、特に母親は 2 年間の幼稚園で子どもの人格の形成と自己肯定感を高めることに大きく影響しています。YWCA 幼稚園は子どもや母親に、他の人々との違いを認め受け入れる寛容さなど正しい価値観を育てる環境を提供しています。パレスチナ内外からの訪問者やボランティアによって、子どもたちが触れる文化の多様性がいっそう豊かになります。

さらに YWCA 幼稚園の教師は、経験に加えて適切な教育資格を持っています。また教師たちはレベルアップのための研修を受講していますが、これは自身の専門分野における指導と学習を向上させる方法を身につける能力を高めるためです。

4.3.4.3 エルサレム子どもセンター

YWCA は、子どもたちのための教育的で創造的な安全な場づくりに力を注いでいます。そこでは、子どもたちが刺激を受け勇気づけられるような方法で自分のニーズや能力、スキルを発見し理解できるようになります。

2011 年、エルサレム YWCA では、4 歳から 14 歳までの少年少女 433 人を対象に、絵画、バレエ、ドラマなどさまざまなレクリエーションや娯楽、教育、文化に関する活動を実施しました。またサマーキャンプを 2 回実施し、少年少女 30 人が参加しました。

さらに、エルサレム、ベツレヘム、エリコにある 6 つの学校に通う子どもたち 560 人が、イタリアの NGO「AVSI(国際奉仕のためのボランティア協会)」の資金提供による学習支援、レクリエーションプログラムに参加しました。この学校プログラムは、パレスチナ YWCA が活動の対象を広げ、活動内容を子どもたちに広く知ってもらう助けとなっています。

また、男女 15 人の若者からなるダブカのグループが約 2 年前に結成され、2012 年初めの YWCA ダブカグループ正式発足記念行事に向けて、2011 年にはさまざまなスタイルのダブカの特訓を受けました。



5. 国際舞台への参加、アドボカシー活動、外国からの訪問者

2011年、パレスチナYWCAは、女性の権利に関する女性を対象にした意識向上を積極的におこないました。また、団体や政府機関に女性たちがアクセスし、女性の権利に関する問題に影響を与えることを目指し、そのためのネットワークの構築に積極的な役割を果たしました。パレスチナにおいてYWCAは大切な時期を迎えています。これまで数多くの有効な女性ネットワークを設立してきましたが、それらが2012年以降に正式に承認されることになったのです。パレスチナYWCAは女性たちにサービスを確実に届け、サービスへのアクセスを確保することが不可欠だと理解していますが、女性に関する法律や規則、規制が変わらなければ、女性の生活を改善し女性たちがエンパワーされ権利を行使できる安全な場を創ることは引き続き制限されるでしょう。

パレスチナYWCAでは、女性の権利に関するアプローチを変えました。多くの女性団体と連携し、国連女性の地位委員会(CSW)などの人権に関する国際的フォーラムで重要な問題に取り組むさまざまな連帯を構築しています。

2011年にパレスチナYWCAは外国からの代表団を数多く迎える一方で、外国での会議やアドボカシー活動、ワークショップに多くのスタッフを送り出しました。今後も、政治的状況とそこから女性が受ける影響について意識を高めていくことがパレスチナYWCAの活動の中心であることに変わりはありません。2011年7月、チューリッヒで開催された世界YWCA総会の際、パレスチナの代表団は複数のワークショップを協力団体と共催したり、プレゼンテーションをおこないました。その中で中心となったプレゼンテーションのテーマは、「アラブの春」とそれが中東地域に与える影響、およびそれによって中東地域の各YWCAの役割がどのように変わるかについてでした。若者が連帯感や主体性、また生活向上を目指す社会的プロセスへの参加意識を持つためには、若者との協働がまだ必要なことが明らかになりました。

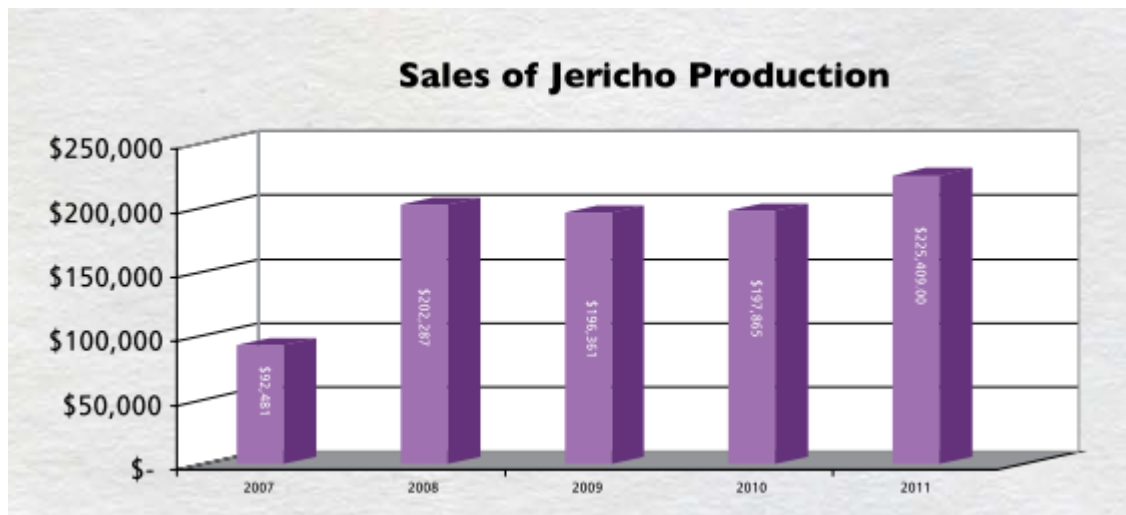


6. パレスチナ YWCA および地域 YWCA 会長

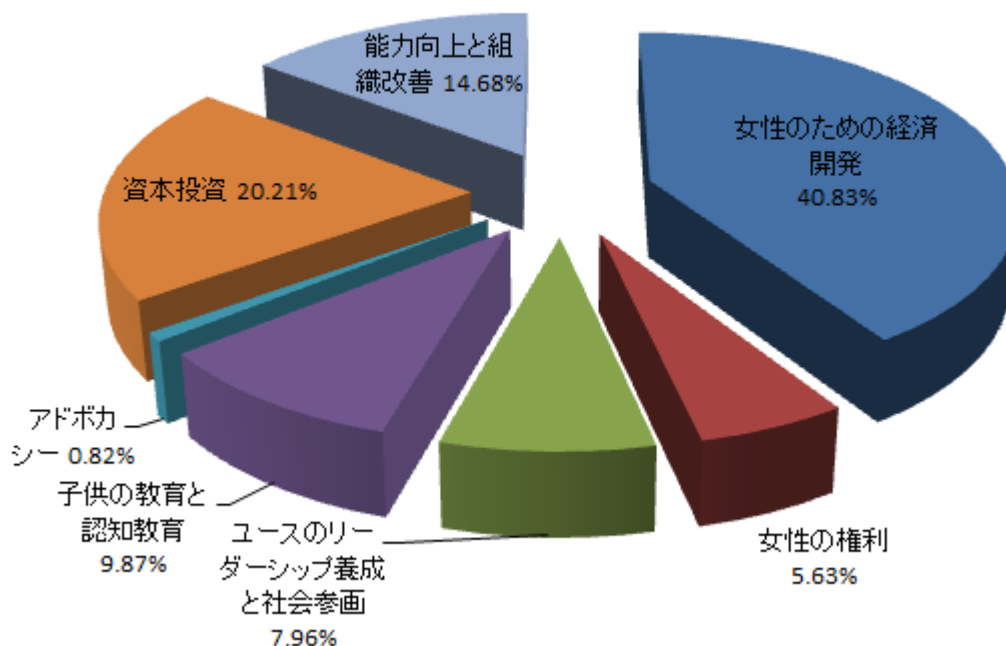
| | |
|------------|---------------|
| パレスチナ YWCA | 会長 アブラ・ナシール |
| エルサレム YWCA | 会長 ミレイユ・グネイム |
| ラマツラ YWCA | 会長 ライラ・コウリー |
| エリコ YWCA | 会長 ファディア・マスード |

7. 会計報告 2011

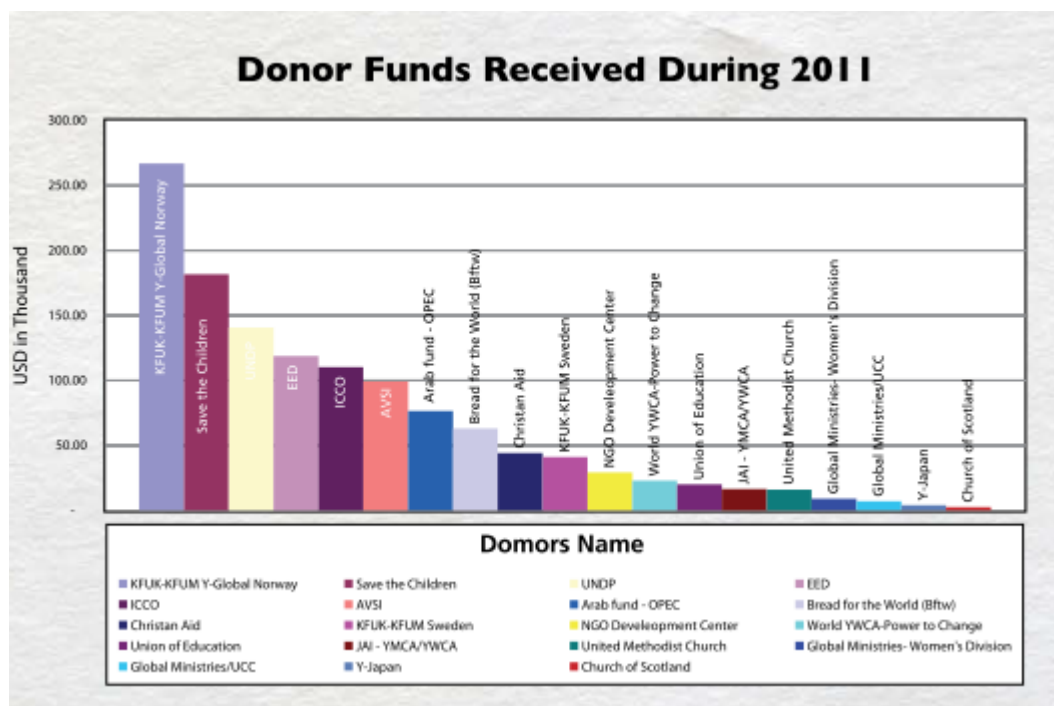
エリコ生産プログラム売り上げ



パレスチナ YWCA 2011 年の部門ごとの支出



2011 年に受け取った寄付者からの援助



(単位:千ドル)

(左から)

KFUK-KFUM Y-グローバル (ノルウェー)

セーブ・ザ・チルドレン

国連開発計画(UNDP)

ドイツ教会開発サービス(EED)

ICCO(開発のためのキリスト教会の相互団体)

AVSI(国際奉仕のためのボランティア協会)

石油輸出国機構アラブ・ファンド

ブレッド・フォー・ザ・ワールド(世界のためのパン)

クリスチャン・エイド

KFUK-KFUM スウェーデン

NGO 開発センター

世界YWCA変革への力基金

教育組合

JAI YMCA/YWCA

合同メソヂスト教会

グローバル・ミニストリーズ女性部

グローバル・ミニストリーズ/UCC

日本 YWCA

スコットランド教会

パレスチナ YWCA 活動報告 2012
日本語版

2012 年 11 月発行

翻訳協力

日本 YWCA コモン・コンサーン翻訳グループ

浅原由美・宇山智美・黒木聖司・
小泉延枝・古賀佳子・今野菊代・
芝田貞子・林加奈・松本千枝・宮坂浩美・
山高万寿子・横山雅代・吉田亜希

編集・発行 日本 YWCA

〒101-0062 東京都千代田区

神田駿河台 1-8-11

東京 YWCA 会館 302 号室

TEL:03-3292-6121 FAX:03-3292-6122

E-mail:office-japan@ywca.or.jp



YWCA of Palestine

East Jerusalem, P.O. Box 20044

Tel: +972-2-6272876/6277911

Fax: +972-2-6282082

e-mail: council@ywca-palestine.org

website: www.ywca-palestine.org